防災情報 2021 年（令和 3 年）11 月

高森台自主防災会

コロナの緊急事態宣言が解かれた途端、10 月 7 日夜に地震が発生しました。また、20 日には阿蘇山中岳第一火口で噴火が発生し、災害はコロナだけでないことを思い出させました。今回は新型コロナウイルスの現状を簡単に整理した後、地震、火山噴火を思い出していただきます。

＜新型コロナウイルスの現状＞

・コロナ感染者数

伊勢原市では、10 月 8 日から 10 日まで陽性者はゼロ。市内の発生状況は、本年 1 月は 156 人、2 月は 30 人、3 月は 29 人、4 月は 61 人、5 月は 78 人、6 月は 35 人、7 月は 90 人、8 月は 396 人、9 月は 101 人、10 月はこれまで 3 人、累計で 1,082 人です。落ち着いてきたように見えます。近隣の厚木市は累計 4,002 人、秦野市は 1,588 人、海老名市は 1,982 人です。

神奈川県では、10 月 21 日現在で、入院患者 135 人、宿泊療養 18 人、自宅療養 113 人。累積感染者 168,779 人、うち変異株患者は 35,840 人に達しています。

日本全体では、10 月 22 日現在で累積感染者数 1,716,088 人、死亡者数 18,173 人です。

世界を見ると、米国では累積感染者 4 千 5 百万人（死者 73 万人）、インドでは感染者 3 千 4 百万人(死者数 45 万人)、英国では感染者 860 万人(死者 14 万人)、タイでは感染者 180 万人（死者 1 万 8 千人)、韓国では 35 万人(死者 2700 人)、中国では感染者 9 万 7 千人(死者 4600 人)となっています。

・ワクチンの接種状況

10 月 21 日現在で、1 回目のワクチン接種は 75.34%、2 回目終了は 67.94%です。都道府県ごとの差異は比較的小さい状況です。接種後の副反応は、とう痛、けんたい感、頭痛、かゆみ、発熱がファイザー、モデルナとも出ていますが、厚生労働省は「接種体制に影響を与える重大な懸念は認められない」としています。接種が始まる前に懸念材料となっていたアナフィラキシーは、6 月の評価では、およそ 7 万 7 千回に一件の割合でした。

・現状をどう評価するか？（川村孝氏のコメント）

・ワクチンは、接種によって感染が防げるというより、感染後に体内での増殖と拡大が抑制されるものである。

・緊急事態宣言（4 回実施）と東京都・大阪府の感染者の推移をみると、その相関性が見られない。したがって、感染余地のある所にウイルスが登場すると拡散（クラスター発生）によって流行が始まり、半数近くが感染するとピークに達して減少に転じるというパターンがはっきりしてきた。第 5 波もデルタ株が感染力が強く急速に拡大･飽和して収束した。

・非常事態宣言発令中の感染状況から、宣言のような社会施策の影響は限定的で、むしろ国民の衛生意識・衛生行動が流行を規定するように思われる。

＜10 月 7 日の地震について＞（気象庁発表から）

久しぶりに揺れを感じましたが、伊勢原では震度３でした。関東南部では震度５のエリアもかなりありました。

発生時刻：10 月 7 日 22 寺 41 分、マグニチュードは 5.9、場所は千葉県北西部深さ 75㎞。

発振機構：東西方向に圧力軸を持つ逆断層型

震度：最大震度は５強で、埼玉の川口市、宮代町、東京足立区で観測。

＜20 日の阿蘇山噴火＞（主に巽好幸氏の記事から）

800km 以上離れているとはいえ、今年だけでも桜島などの九州の火山や小笠原諸島でも活発な活動が続いています。阿蘇で噴火したから富士山でもというつながりはないのですが、2011 年の大震災によって地殻に働く力が変化したので、噴火しやすくなっているエリアが多くなっています。日本列島は活動期に入ったと考え、地震へも備えを固める方が良い。

＜1923 年関東大震災＞

よく知られているように、1923(大正 12)年 9 月 1 日 11 時 58 分に起きた関東大震災は、震源地は諸説ありますが、神奈川県西部から相模湾で、深さは 25km と推定されています。マグニチュードは 7.9 です。この地震による死者は約 10 万 5 千人にも及び、そのうち 9 万 2 千人は火災による死者です。したがって、住宅全壊などによる死者が 1 万 3 千人いたことになる。うち、津波による死者 200～300 人、土砂災害によるもの 700～800 人でした。火災による被害は、東京本所「被服廠跡」だけで 3 万 8 千人がなくなったとされます。

住宅の全壊数は、東京よりも神奈川の方が多かったそうです。神奈川が震源地だったこともあり、県全体で震度６以上であったと思われます。

津波は、相模湾から伊豆半島にかけて、高さ 5m 以上に達し、熱海では 12mだったという記録もあります。また、県内各所で、土砂崩れが発生し、鎌倉が道路の寸断で孤立したり、丹沢や箱根などの山間部ではさらに被害が大きかったようです。

茅ヶ崎の倉見神社にある碑には、132 戸中 94 戸が全壊、38 戸が半壊、12 人の死者が出た。そして、翌年１月に大きな余震があったと記されています。

伊勢原市内では、大山の山腹に発生した亀裂や崩壊で生じた土砂が谷部にたまり、それが数日後の豪雨により鈴川を駆け下り、山津波となって人家 140 戸を押し流しました。小規模の土砂流出はたくさんあったと推測されます。震災による市内の死者は 128 人でした。

また、各種の流言飛語により混乱が拡大したのも事実です。よく知られている「朝鮮人来襲説」だけでなく、「富士山爆発」、「大津波襲来」、「政治家の暗殺」等々です。今は、SNS などを通じて根拠のないニュースが拡がる可能性がもっと強いので、正しい情報を見極める必要があります。

同地震の余震は、9 月 1 日と 2 日に M6.1～M7.3 の地震が東京湾、茨城沖、千葉沖、静岡県などで発生したほか、翌年 1 月にも M7.3 の地震が神奈川県西部(丹沢地震)で発生しました。

＜参考文献＞

・「関東大震災と神奈川県」名古屋大武村雅之(2013)
・「神奈川県内陸中部での関東大震災の跡」名古屋大武村雅之(2014)
・「1923(大正 12)年関東大震災」(2007)
・「地震後の大山の土石流」伊勢原市
・「市内警戒区域 81 ケ所」タウンニュース(2014)
・「関東大震災」吉村昭

・・・

新型コロナが広がり始めたとき、ほかの災害が出たらどうなるのか心配しました。関東大震災から約 100 年が経過しましたが、スペイン風邪も第一次世界大戦も同時期です。災害は同時期に重なって起きやすいものらしいです。コロナの収束を願いつつ、ほかの災害も忘れないようにしましょう。

文責：植村